

平成29年10月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成29年10月の山梨県内の全業種のDI値は、前年同月比で、収益状況は2ポイント悪化したが、売上高は10ポイント、景況感は20ポイント改善した。

一方、前月比で比較すると売上高は18ポイント、収益状況は8ポイント、景況感は2ポイントそれぞれ悪化する結果となった。

業種別のDI値を見てみると、製造業は、前年同月比では、売上高は10ポイント、収益状況は10ポイント、景況感は30ポイントといずれの項目も改善したが、前月比では材料の値上りや価格競争が激化した影響から売上高のみ10ポイント悪化し、収益状況、景況感はそれぞれ5ポイント改善する結果となった。

非製造業においては、台風や季節外れの長雨など宿泊業や青果小売などの業績に天候が反映されやすい業界の影響が大きく前月比では売上高で23ポイント、収益状況で16ポイント、景況感で7ポイントそれぞれ悪化した。

前月、全業種でDI値がプラスとなったが一転し、売上高、収益状況はマイナスとなった。製造業では、木材の値上げ、非製造においては原油価格の高騰の報告があり、中小企業者が諸資材の値上がり又は人件費、社会保険料の負担の増加分を適正に取引価格に転嫁することが課題のひとつ、不測の経営変化にも対応できる経営力強化が必要だと考えられる。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は前年並み。業務用食材は不調だがおせち料理向けが好調で、全体の売上は前年同月比で102.8%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の売上は前年を下回ったが、輸出向けが好調で100.4%。OEMは好調だが、焼き菓子が低迷し88.9%。全体の売上は前年同月比94.8%と前年を下回った。
食料品（酒類製造業）	ワインの原料となるブドウの出来が好調だったためワインにも期待が高まる。
繊維・同製品（アパレル）	業界全体の売上の減少に伴い、加工部門においても相対的に価格低下の状態である。
木材・木製品製造	輸入材(米産材)の値上がりが2～3ヶ月続いているが、値上がり分を売価に転嫁できない。収益の悪化が懸念される。
家具製造	木材全体が値上げされる傾向があり、材料の仕入単価に値上げ要請の動きがある。
窯業・土石（砂利）	年度の繁忙期を迎えるが、工事量は少なく骨材需要量も低調。中部横断自動車道関連の工事はほぼ完成し、今後はリニア中央新幹線関連の工事に期待が高まる。
窯業・土石（山碎石）	製品出荷量の減少に歯止めがかからず、依然として厳しい状況。リニア中央新幹線関連の工事や公共工事が始まるまでは、見通しは暗い。

鉄鋼・金属	製造業は全般として回復基調であり、売上高、収益状況は5%と緩やかに改善。
一般機器	製造業全体として回復基調であり、売上高は5%、収益状況は3%と緩やかに改善。後継者をはじめとした人材不足が課題である。
一般機器	工場の増改築の設備投資計画など業界の景況感は好転している。
電気機器	見積依頼が増加しており、受注につなげて行きたい。人材不足が課題であり、募集を行うが一定の技術をもつ者が少なく、採用につながらない。
電気機器	航空機関連はボーイング787機が、月産8機から12機に増加し稼働率は上昇した。しかし10月受注分からはコストダウンが行われ売上や収益状況の改善にはつながっていない。

● 非製造業

卸売（紙製品）	中国が古紙類の輸入規制を行い年末から受入禁止となる。この影響の予測が困難。これにより、国内古紙が供給過剰となり、価格の暴落と共に製紙会社の受け入れ激減につながる恐れが懸念されている。
小売（青果）	長雨や台風の影響から野菜は30~40%の値上がり。今後の天候回復に期待。
小売（食肉）	前年同月比では比較的売上は安定しているが、長雨や台風の影響により観光業関係先からの受注が例年に比べて減少し、業界の売上としては前年並み。
小売（石油）	原油価格の上昇に伴い卸価格も上昇したが、小売価格に上昇分の転嫁が行えず利益につながらない。
商店街	選挙や台風の影響から前年同月比で売上は2%減少
宿泊業	秋の観光シーズンだが、週末毎の台風や長雨の影響から宿泊キャンセルが発生し、売上高、収益状況共に3%悪化した。これから見ごろの紅葉の時期に天候が崩れないことを期待している。
一般廃棄物処理	11月改正の標準貨物自動車運送約款により、運送の対価としての運賃に加えて運送以外の役務等の対価としての料金を適正に取引できるようになることは大変発展的である。しかし、廃棄物処理業における収集・運搬料金は新規参入者によるダンピングがあり、顧客から取引価格の引き下げを要求されることを懸念している。
警備業	中部横断自動車道、リニア中央新幹線トンネル及び台風等災害復旧の公共工事に対する警備員の派遣要請の増加により、業界の景況感は好調。売上高、収益状況の改善につながった。しかし警備員不足から充分に応えられない状況があり、工事期間の遅延に影響を及ぼしている。人材確保の課題対応のため、今後は警備員の処遇、職場環境の改善を行い、人材の定着を図る必要があると感じている。
建設業（総合）	10月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は16%、請負金額は47%それぞれ増加している。しかし今年度の累計では件数は5%、請負金額は11%減少している。
建設業（型枠）	年末に向け大変忙しい時期が続くが、来年は仕事量の減少が予想される。材料の高騰や、今年度からの社会保険加入の義務付けにより人件費が上昇しており、仕事量の確保のために工事単価を下げない様、各社の企業努力が望まれる。
建設業（鉄構）	受注は首都圏などの県外物件に依存する傾向が続いている。

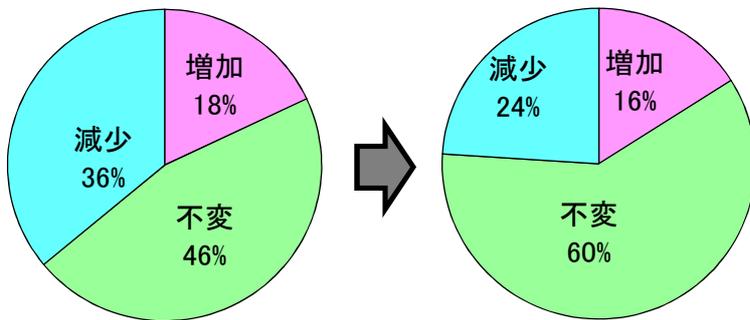
設備工事（電気工事）	組合員の高齢化による脱退が増加している。
設備工事（管設備）	公共工事及び住宅工事量の減少が続き、売上高では22.6%減少。
運輸（タクシー）	台風の影響から乗客数が少なく、売上高は前年同月比で45%悪化。先行き不透明。
運輸（バス）	人材不足が課題である。
運輸（トラック）	国土交通省においてトラック運送事業の適正運賃・料金収受を推進するための標準貨物自動車運送約款等の改正が平成29年11月に施行されることに加え、安全運行に違反したトラック運送事業者の処分と共に、荷主に対し再発防止に努めるよう勧告できる荷主勧告制度が強化された。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2016/10	2017/9	2017/10	2016/10	2017/9	2017/10	2016/10	2017/9	2017/10
売 上 高	-15	5	-5	-20	13	-10	-18	10	-8
収 益 状 況	-10	-5	0	-3	3	-13	-6	0	-8
景 況 感	-20	5	10	-13	7	0	-16	6	4

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

売 上 高（前年同月比）

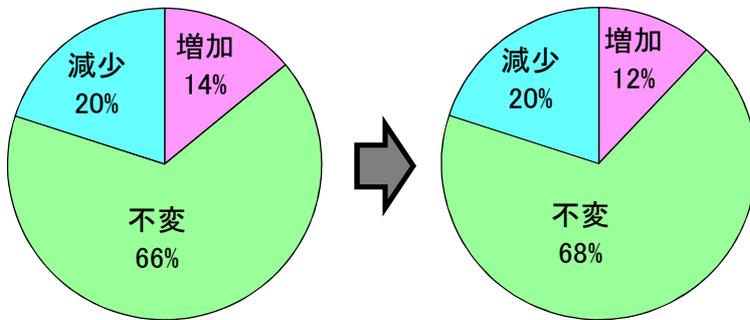


平成28年10月

平成29年10月

- ・ D I 値 ▲ 8（前年同月比+10）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲ 5（前年同月比+10）
 - 非製造業 ▲10（前年同月比+10）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 10ポイント悪化
 - 非製造業 23ポイント悪化

収 益 状 況（前年同月比）

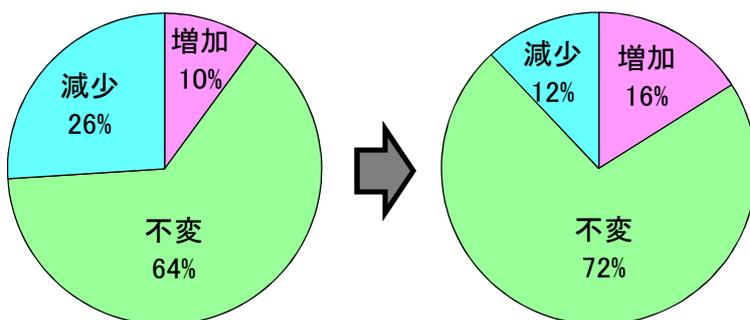


平成28年10月

平成29年10月

- ・ D I 値 ▲ 8（前年同月比▲ 2）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ± 0（前年同月比+10）
 - 非製造業 ▲13（前年同月比▲10）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 5ポイント改善
 - 非製造業 16ポイント悪化

景 況 感（前年同月比）



平成28年10月

平成29年10月

- ・ D I 値 + 4（前年同月比+20）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 +10（前年同月比+30）
 - 非製造業 ± 0（前年同月比+13）
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 5ポイント改善
 - 非製造業 7ポイント悪化